

神戸一中サッカー部と 河本春男

文・瀬戸本淳（建築家）



瀬戸本淳（せともと じゅん）
株式会社瀬戸本淳建築研究室 代表取締役

1947年神戸生まれ。一級建築士、APEC アーキテクト。神戸大学工学部建築学科卒業後、1977年瀬戸本淳建築研究室を開設。以来住まいを中心として、世良美術館、月光園、鴻臚館など、様々な建築を手がけている。神戸市建築文化賞、兵庫県さわかわく街づくり賞、神戸市文化活動功労賞、西宮市景観賞などを受賞。

命がけの奮闘。全身全霊の緊張。その間に感じる、ゲームの妙味。サッカーは世界で最も愛されているスポーツだが、世界へつながる港町、神戸は日本におけるサッカー発祥の地で、諸説あるが明治5年（1872）に居留地ではじめて試合がおこなわれた。その後年に日本で公式にサッカーの試合が行われ、「K R & A C（神戸レガタアンドアスレチッククラブ）」がY C & A C（横浜カントリー・ア

ンド・アスレティック・クラブ）」を2対1で下している。

ゆえに、神戸では早くからサッカーが定着。なんと戦前の中学校（師範学校も含む）の公式全国タイトル18のうち11は兵庫県のチームだった。兵庫大会の決勝戦は事実上の日本一決定戦だったそうだ。中でも強豪だったのが御影師範（神戸大の前身）、神戸一中（現在の神戸高校）、神戸二中（現在の長田高校）で、甲陽や灘からも日本

代表を輩出するなどレベルが高いかった。

神戸一中のサッカー部は神戸尋常中学校時代の明治29年（1896）に「蹴鞠会」として結成されたが、これは全国的にみても早く、イタリアのプロリーグ、セリエAよりも歴史が古い。

そんな神戸一中サッカー部をさらなる高みに導いた教師が河本春男だ。河本は明治43年（1910）愛知県生まれ、

13歳の頃に刈谷中でサッカーをはじめ、3年生の時には神戸一中を破るなどして全国大会で優勝している。その後東京高等師範学校（現在の筑波大）に進学し、プレーしていたが、卒業直後に神戸一中の池田多助校長が直々に要請し、昭和7年（1932）に神戸一中に着任、サッカー部部長になった。

着任翌日の練習初日は雨。グラウンドに出了ものの部員は誰一人としていなかったという。そんな状態から生徒とともに走ってボールを蹴りながらチームを中心ともに鍛え上げ、着任1年目にして全国大会で3度目の優勝に導くなど、7年の在任期間中に全国優勝4回、準優

勝1回と輝かしい成績を収め、多くの日本代表選手を育てた。

河本はその後岡山女子師範学校へ転任、さらに従軍して大陸へ赴き、除隊後は岐阜県体育主事を経て、戦後実業家へ転身。アルプスバター神戸直売所を開設、岐阜の牧場から神戸の菓子メーカーに販売し事業は順調だったが、昭和37年（1962）にユーハイムの創業者夫人、エリゼ・ユーハイムから懇願され、同社の代表取締役専務に就任する。当時のユーハイムは経営状態が芳しくなく資金繰りも難しかったが、たまたま銀行の廊下で神戸一中のサッカー部員出身の銀行役員から声を掛けられ、それがきっかけで融資を受けら

れるようになり経営が再建できただけ。その後、エリゼが亡くなると社長として手腕を發揮、平成12年（2000）に退社し、その後に94歳で没した。

サッカーは出足が大事。河本は「常に歩先んじ、刻早く」をモットーにしていたが、それは神戸高校の精神として今もなお根付いている。

次号では神戸一中サッカー部出身の著名人を紹介しよう。

※敬称略
※兵庫県立神戸高等学校鵬友会発行の「鵬友」などを参考にしました。



河本 春男（かわもと はるお）
株式会社ユーハイム 代表取締役会長

昭和7年に東京高等師範学校卒業後、兵庫県立第一神戸中学校に奉職。昭和14年、岡山県女子師範学校へ転任し、昭和18年、岐阜県体育主事に補せられる。昭和22年、以顧免官し、商人となる。昭和33年、有限会社アルブスター神戸直売所を設立し、代表取締役となる。昭和37年、株式会社ユーハイム代表取締役（専務取締役）に就任。昭和46年、エリゼ・ユーハイム社長死去により、社長となる。同社代表取締役会長を経て、平成12年、株式会社ユーハイム代表取締役会長を退任し、相談役となる

写真提供／株式会社ユーハイム